



新鮮な野菜やお花を販売するブースは朝から盛況。見沼ふれあい散歩の会が、写真を顔に見立てるユニークな取組を行っていました。

見沼たんぼ地域で栽培された新鮮な農産物の販売も



見沼たんぼ地域の農家が生産した秋野菜や果物、お米、花苗など、収穫されたばかりの新鮮な農産物を直売するコーナーも。これを目当てに訪れる人も多く、お昼頃には売り切れているものもありました。



改めて見沼たんぼについて学ぶことができてよかったです。この公園とその周辺はのどかな風景が広がっていて、気持ちよく過ごせました。



瀬下 文男さん

これほど多くの市民団体が、見沼たんぼの保全のために活発に活動していることを初めて知りました。親子で楽しめるイベントだと思います。



清水 正明さん

こちらの公園に初めてきましたが、とてもいいところですね。イベントの当日だけでも会場の入り口まで公共交通機関で来られると良いと思います。



佐瀬 正俊さん

懐かしい気持ちで子どもも大人も楽しめる紙芝居

さいたま紙芝居研究会は、季節感を深めることのできる里山の自然と関連する昔話や創作の紙芝居を屋外で実演。秋の気配の中、素朴で懐かしいお話の紙芝居は、感性を育み合う豊かな出会いとなっていました。

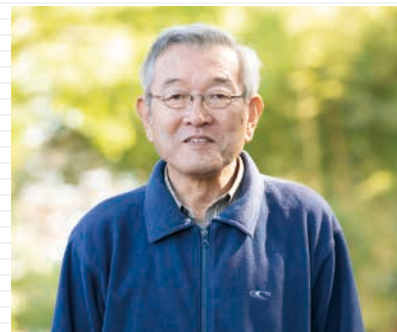


Interview

見沼たんぼの美しい原風景を未来に残すことを目指して

2016年に「見沼・さぎ山交流ひろば」が組織され、みぬま秋フェスが始められました。見沼たんぼを訪れる人と、見沼たんぼで活動している市民団体や農家などとの交流を目的として始まったイベントです。この組織に所属している団体は、さまざまな形で見沼たんぼに関わる活動を行っています。例えば、私が所属する『NPO法人エコ・エコ』は、見沼たんぼの自然の保全活動を行っていますし、田んぼ体験を行なっている『NPO法人見沼ファーム21』や、見沼たんぼ周辺のガイドを行う『見沼たんぼ地域ガイドクラブ』、農業体験を行なっている『ファーム・インさぎ山』など、37ほどの団体が参加しています。

見沼たんぼエリアは約1260haありますが、その中でも田んぼは6%しか残っていません。見沼たんぼでは、斜面林とその脇を流れる見沼代用水、そして田んぼが広がっているというのが原風景。この見沼たんぼならではの



見沼・さぎ山交流ひろば 運営協議会 会長
NPO法人エコ・エコ 加倉井 憲一さん

★見沼たんぼのホームページ <http://www.minumatanbo-saitama.jp/>
→4~6ページの詳細については見沼田圃政策推進室(☎048-829-1413/FAX 048-829-1979)まで。



見沼たんぼについて学べるクイズラリーに挑戦

さぎ山記念公園と、隣接する見沼自然公園内に点在するクイズに答えながら、公園内を巡るクイズラリー。見沼たんぼの自然や歴史にまつわるクイズに答えれば、知識を深められます。秋の気持ちいい空気の中を散歩気分で行くことができました。



自然の香りに癒されるハーブを使ったサシェ作り

浦和ハーブ友の会は、見沼氷川公園のハーブ園で栽培されたドライハーブを使ってサシェ(香り袋)作りを行っていました。作ったサシェはカバンに入れて持ち歩いたり、クローゼットに入れたりして、ハーブの優しい香りを楽しめます。



見沼たんぼ周辺の竹林から切り出した竹を使った工作体験

見沼たんぼ周辺の斜面林にある竹林の竹を使った工作体験を行っていたのは、さいたま緑のトラスト保全第1号地(龍の森)保全会。保全会のメンバーがサポートしながら、ノコギリでの竹切り体験やペン立て、花びん作りなどを楽しめました。



見沼・さぎ山
交流ひろば主催

みぬま秋フェス 2018 inさぎ山に 行ってきました!

見沼たんぼの情報発信のために毎年さぎ山記念公園で行われている「みぬま秋フェス」に、読者モニターの皆さんと行ってきました。



自然素材を使って作るリースは親子連れに人気

NPO法人エコ・エコは見沼たんぼの動植物の保護や、自然観察、里山体験などに取り組んでいます。この日は、自然素材を使ったクリスマスリースなどの季節の飾り作りを行っており、親子連れでにぎわっていました。

